



あすなろ通信

10月
2025年
10月
October



季節が大きく動き、朝晩寒くなりました。
日がだんだんと短くなり、一日一日が早く過ぎていきます。
時間を大切に、充実の秋、実りの秋にしましょう。



今月の行事

- 6日(月) ヨガ
- 7日(火) 外国語学習
- 22日(水) 美術活動
- 31日(金) スポーツ活動
- 20日(月) ~保護者懇談会



読書の秋



勉強の秋

【あすなろ菜園で、蕪(かぶ)を育てています。】



活動の様子

【外国語学習】



【ヨガ】



【美術活動】



【室長コラム】

昔からの教で、「とてもかくても強(しい)いて説き聞かすべし」という言葉があることを知った。「強いて」とは、ここでは「力を加えて無理やりにでも…」という意味ではなく、「敢えて」(困難やリスクがあっても、しっかりと意図や目的をもって行うこと)という意味で使われている。つまり、「相手の反応がどうであれ、しっかりと語っていくことが大切である」という意味である。自分の思いを伝えようとしても、相手にきちんと伝わらなかったり、伝わったとしても心に響かないことがあるかもしれない。でも、だからと言ってあきらめるのではなく、本当に伝えたいと思うことは敢えて語り、一度で伝わらなければ二度、二度で伝わらなければ三度と、繰り返し語っていけば、いつかは相手の心に届くということもあるだろう。相手のことを本当に大切に思うのであれば、この「敢えて」の心が大切なのではないかと思う。相手のことを決してあきらめない、見捨てないために。

最近、この「敢えて」の気持ちが少し弱くなっているような気がする。相手の気持ちを慮って(と言えば言葉はきれいであるが…)、敢えて言うことをやめる場面が多くなってはいないか。「とてもかくても強いて説き聞かすべし」というこの言葉に出会って、もう一度自分の言動を見直してみようと思った。

今年、アメリカ野球殿堂入りを果たしたイチロー選手は、野球界の常識にとらわれず、自分のスタイルを貫いた。そして、後輩選手やファン、野球好きの子どもたちに、自分流の野球理論や自身の野球への取り組みを語り続けた。たとえ批判されても、自分の信じる道を突き進み、自分を語る姿勢は、まさに「敢えて説き聞かす」精神の体現だと言えよう。その結果、とてつもなく大きな記録と記憶を人々の心に刻んだ。あきらめないこと、あきらめずに語り、行動していくこと、その努力の継続があってこそ、自分の道が開かれ、相手の心も開くことができる。

もちろん、敢えて言わないという選択が必要な時もある。でも、敢えて言わないのは、次の機会に敢えて言うための準備であることを忘れてはいけない。いつかは必ず相手の心に通じると信じていたい。そのための種を蒔き、育てる努力を惜しんではいけないと思った。いつか必ず花は咲く。



「あすなろ教室」

TEL 0897-37-7474

FAX 0897-32-6822

e-mail asunaro@city.niihama.lg.jp

